

明治時代の地図からよみとく歴史的景観

福村任生

飯田市歴史研究所 研究員

はじめに（講座のテーマ）

現代社会は、航空測量技術の発達により、正確な地図が簡単に作成される時代です。一方、航空機がなかった明治時代にも、測量士らが地面を歩いて測量した精密な地図が存在します。これらの地図を素材として、近代化の途上にあった明治時代の飯田・下伊那の景観について考えます。

1. 明治時代の地図—歴史的背景

● 絵図から地図へ

- 測量地籍図の誕生：西欧の近代税制改革、啓蒙の世紀からナポレオン・カタストの誕生¹

- 絵図と地図のちがいは：共通点は、ともに土地景観を図に表現したものであること。

（絵図）透視図法（パース）＝観測者の眼からみえる映像の再現（主観性／芸術性）。

（地図）平面図法（イクノグラフィ）＝真上から見下ろした図（客観性／科学性）

- 軍事測量図と測量地籍図：近代地図にはふたつの系譜。

地形図（三角点）と地籍図（土地区画）。⇒兵站 logistic と徴税 tax で目的がちがう。

● 明治 6 年頃に作成された地引絵図

[作成の経緯]²

明治 5 年壬申地券発行と地引絵図提出の布告。多くの村々で翌明治 6 年に地引絵図が作成された。

史料 A：大蔵省→県→郡→村へ布告。地番が振られた初めての村の耕地絵図（≠地図）

- 地引絵図の例：①上飯田、②川路、③伊賀良（上殿岡と下殿岡）、④鼎（山村）

下伊那の特徴：土地種別の色使いが、黄色＝田、緑＝畑、山林・荒地＝灰色で共通。

- 下伊那では地引絵図はいつごろまで使われたか？

壬申地券は江戸時代の帳面・貢納制のまま→明治 6 年には地租改正（「丈量」＝面積測量が要請）

※神奈川県では地租改正絵図が明治 7～8 年に作成された（改正地引絵図＝別の地引絵図も存在）。

→下伊那の地引絵図は年代記載が乏しいが、おそらく明治 6、7 年の作成で地租改正後も使用された。

● 明治 22～25 年の町村地図（のちに公図 or 分間図とよばれる、現在の地籍図と同等の地図）

[作成の経緯]

明治 22 年の新町村制＝近代的自治体としての町村の誕生（明治の大合併）。

史料 B：大蔵大臣松方正義の内訓 「(町村) 地図ハ、(…) 土地百般ノ徴証ニ欠クヘカラサルモノ」

→下伊那郡内では、新町村の最初の公共事業として測量地図の調製がなされた。絵図⇒地図

- 町村地図の製図者：下川路村の例³ 「尤モ精確、尤モ重要ナル地図」

測量技士石野兼介の請負／岐阜県可児郡廣見村の出身、当時 24 歳の青年測量士。

- 西欧の地籍図との比較：1/600 という驚異的な精度⇔西欧では都市部 1/1000、農村部 1/2000。

①田園景観の図面化には畦畔の図示が不可欠であった。1/2000 では不可能。

②西欧では土地と建物を含めて不動産。日本は地租（土地課税）のみ。⇒建物は描かれない。

③日本の地図は、地図そのものに田畑山林宅地の土地利用種別も記載されている。

2. GIS による景観の復元的研究

● 明治 23 年の下川路村（現飯田市川路地区）の農村景観⁴

- 下伊那の農村の近代＝養蚕モノカルチャーの形成。昭和 28 年の統計では田圃と桑畑が半々。
- それ以前の景観の復元的理解が課題。明治 20 年代はまだ江戸時代の面影が残る？ 広大な河原の荒地。
- 宅地分布：4 区に遠州街道に沿って片側町の形成（旧上村）⇔6～8 区に散居型の集落形成（旧下村）

● 明治 34 年に作成された建物台帳⁵

- 先述の町村地図は、地租の徴収が目的。土地の形しかわからない。どんな建物が建っていたかは不明。
- 一方、各地の役場文書に明治 34 年作成の建物台帳と呼ばれる帳簿が散見される。
例）川路の『建物台帳』甲乙冊：戸番順に整理。戸数割（≡住民税）という村税の徴収に利用か。
 - 家の外形や方位が判明：南向き正面タイプと道路向き正面の 2 タイプ。
 - 本棟造（板葺 or 瓦葺）、瓦葺二階造（町屋系、養蚕系？）などさまざまな民家類型が確認される。

● 大正期の飯田町の景観を復元する

- 飯田の都市景観は飯田大火（1947 年）で大きく変容。それ以前の景観を復元できないか？
- 利用できる素材

① 飯田町図（大正期と推定、1/1200、町村地図の縮小コピー？）〔飯田市歴史研究所所蔵〕

② 明治 34 年『建物原簿』（形式は上記の川路とやや異なるが、建物台帳）〔同上〕

- 本町一丁目と追手町の町並み（建物がどう建っていたか）の史料に基づいた復元の試み
⇒図らずも 1922（大正 11）年大火とその復興の様子が読み取られる。

広小路における木骨コンクリート造（中島屋本店）。モダン建築の登場。cf 東京の関東大震災復興。

● 近世の景観へさかのぼる

- 伊那街道における宿場町の比較研究の可能性
〔背景〕上伊那の宮田宿、下伊那の駒場宿の建築調査に参加
〔素材〕戦前の地籍図（①明治のオリジナル、②大正・昭和初期の更正図）+0.5m メッシュ標高データ
- 近世における町（ちょう）の計画寸法
⇒飯田城下、各地の宿場町における計画寸法の分析→江戸間と京間の混在が確認。形成期の違い？

むすびに

〔史料論・フィールドワーク論〕

- 明治から戦前の測量地図を丁寧に分析すると、近世から近代のさまざまな営みの痕跡が読み取れる。
- 測量地図をフィールド調査のリアルな記録として読むことが重要。
〔日常景観論〕 cf. 欧州景観条約（フィレンツェ、2000 年）。
- 都市空間や農村景観そのものが歴史の証人。あらゆる景観は歴史＝文化的景観といえる。
- 現代の日常を支えている持続的構造は、長い時間のなか（＝歴史）で形成。

<史料>

A. 地券渡方規則（大蔵省達第一二六号）⁶（1872〔明治5〕年 壬申 九月四日付追加条文 抜粋）

第二十三条 従前切畝致シ、検地帳・名寄帳・小拾帳等ニ突合サル共、現地ノ景況ニ随ヒ、総テ地引絵図可差出旨説示可致事。

第二十四条 反別等持主申立ヲ以テ検地帳へ引合セ、相違無之分ハ据置ノ積相心得、検地竿入等取計不及候得共、地所境界紛雜調差支候向ハ一筆限畝杭ヲ打、地引絵図為差出、落地無之様実地検査可致事。

但、余歩有之地所、検地帳ニ比較増歩相成候分ハ人民申立之通据置、右ニ相反シ検地帳ヨリ減歩相成候地所、竿入検査ノ上減歩可致事。

第二十五条 従前高内外ニ不拘、社寺・郷藏之類或ハ埋葬地等地主定リ無之分ハ、地引絵図中ニ其訳可記置事。

B. 大蔵大臣 松方正義→府県知事（大蔵省達第三八九〇号）⁷（1887〔明治20〕年六月廿日付 内訓）

第三千八百九十号

地租改正ノ際調製セシ町村地図ハ、各地方ノ便宜ニ任セ、技術不慣熟ナル人民ノ手ニ成リシモノナルカ故ニ、概ネ一筆ノ広狭形状等実地ニ適合セス、或ハ脱漏重複、又ハ位置ヲ転倒スル等、不完備ヲ免カレサルモノ多キニ居ル。加之地租改正以後十余年間頻繁地目ノ異動アルモ、地図ハ改正ヲ加ヘサルカ為メニ、目今ニ至リテハ頗ル錯雜ヲ極メ実地ト齟齬スルモノ夥多ニシテ、到底地図ノ用ヲナス能ハサルヨリ、往々地図更正ニ着手ノ地方アリ。一体、地図ハ各町村ノ実況ヲ詳カナラシムルモノニシテ、地租調査上ハ勿論、土地百般ノ徴証ニ欠クヘカラサルモノトス。依テハ今後地図ヲ更正スルモノハ、別冊準例ニ憑拠スルモノトス。

（別冊）

- ・町村地図調製式及更正手続 （省略）
- ・町村製図略法 （省略）

C. 清内路下区有文書 29-62-5 町村地図調製規約書（1889〔明治22〕年）

今般村内地籍ノ実況ヲ詳明ナラシムルハ土地百般ノ徴証^{マツ}革固タラシムルニアリト、即チ測量分間ヲ以テ実地適合ノ地図調製等被遂候ニ付テハ（…以下略）

¹ 拙稿「研究動向 イタリア・ヴェネトにおける小都市および風景研究」（『地中海学研究』42号、2019年）参照。

² 佐藤甚次郎『神奈川県の明治期地籍図—東京三多摩を含む地域の公図のなりたちと特色』暁印書院、1993年

³ 拙稿「明治20年代の地図調製—村役場と測量技士」飯田市歴史研究所編『史料で読む飯田・下伊那の川路のあゆみ—近世から近代へ』2020年、所収。

⁴ 同「明治期下川路村の景観構造の復元と民家類型」『飯田市歴史研究所年報』19号、2021年。

⁵ 同「上飯田村・飯田町役場文書—「建物原簿」を読む」『飯田市歴史研究所年報』18号、2020年。

⁶ 佐藤、前掲書、24頁。原典は『法令全書』第五卷ノ一 六四七一六七八頁

⁷ 同上、206-207頁。原典は『明治前期財政経済資料集成』第七巻、四〇六頁。

飯田・下伊那の明治20年代調製地図（所在を確認したもの）					
旧村名		製図者	調製年月日	名称	保管場所
飯田町	—	未調査			飯田市財務課地下書庫
上飯田村		未調査			飯田市財務課地下書庫
	山之部／大平	岐阜縣武儀郡富野村 吉田外三郎（筆頭） 長野縣下伊那郡上飯田村 加山芳松 久保田庄次郎 吉澤利作 酒井紋吉 久保田林彌	M25年12月	「第〇号区域図」	飯田市本庁税務課（現用）
上郷村	大字飯沼	岡田盛太郎 吉川文治郎	（M23年11月） 鉛筆書き	「第〇番繪圖」	上郷公民館移管資料（上郷民俗資料館内）
	大字黒田	北原倉太郎 篠田實弥	記載なし	「第〇番繪圖」	上郷公民館移管資料（上郷民俗資料館内）
	大字黒田	壱冊＝井坪喜平太 井坪宅蔵 井坪健治郎 （朱印＝井坪正高）井坪安治郎／貳冊＝北原倉太郎 篠田実弥 /六千分之一縮図 井坪喜平治 篠田實弥 北原金次郎	記載なし	「第〇番繪圖」	飯田市本庁税務課（現用）
	大字別府	吉川逸太郎、吉川三木太郎 矢崎喜代二 矢崎樫蔵	記載なし	「第〇番繪圖」	飯田市本庁税務課（現用）／写し＝上郷公民館移管資料
座光寺村		長野縣下伊那郡座光寺村 棚田恒次郎 棚田定太郎 松村浄太郎	記載なし	記載なし	麻績史料館
鼎村⇒鼎町	大字鼎	愛知縣南設楽郡豊島村七番戸 森莊之助 同縣渥美郡豊橋本町五拾三番戸 田中恒次郎	記載なし	「第〇番図」	鼎自治振興センター
	大字稲井	未調査			
松尾村	大字松尾	佐羽尾理作 戸効政吉 （愛知県出身力）	M22年8月	「〇番字□□」	松尾自治振興センター
	大字毛賀	未調査			
下川路村		岐阜縣可児郡廣見村字石井二十六番地 石野研介	M23年8月1日	「第〇号地図」	川路自治振興センター
伊賀良村	大字大瀬木	市瀬甚三郎、木下倉三	M23年	「第〇番」	飯田市歴史研究所所蔵、伊賀良支所文書
	大字北方	宮下為次郎、静岡県駿河国益津郡藤枝町 岩澤和一郎	M23年	「第〇番」	
	大字三日市場	静岡県駿河国益津郡藤枝町 岩澤和一郎、平田翁太郎、松井徳三郎、熊谷勅、今牧平太郎、	記載なし	「第〇番」	
	大字中村	久保田萬次郎、平田貞次郎、熊谷政吉、久保田源之助	記載なし	「〇番字全図」	
	大字下殿岡	矢澤禮三、矢澤金太、矢澤猪助、矢澤喜一	M22年4月	「〇番字□□全図」	
	大字上殿岡	静岡県駿河国志田郡下青嶋村 北堀吉蔵、同県同国同郡大住村 曾根弥十郎、同県安倍郡静岡馬場町 岩本章三	M22年2月	「〇番字□□全図」	
清内路村		上＝小栗鹿三郎 / 下＝堀源太郎	M24年12月	「第〇番字全圖」	清内路下区有文書